

平成28年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
畜産部門

スリーサイトシステムと耕畜連携で高生産性を実現する養豚経営

○氏名又は名称 有限会社 コマクサファーム（代表 遠藤 勝哉）

○所在地 岩手県八幡平市

○出品財 経営（養豚）

○受賞理由

・地域の概要

八幡平市は、岩手県の北西部に位置し、総面積は862km²で県全体の5.6%を占めている。気候は寒暖の差はあるものの年間を通じて比較的涼しく生活しやすい環境である。農業生産は稲作が中心であるが、農業生産額では畜産が約半分を占めている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

コマクサファームは、現地で母豚10頭から養豚業を開始し、45年にわたって規模拡大を続け、現在、母豚1,600頭、常時飼養頭数約22,000頭の規模に成長した。農場を繁殖、離乳、肥育の3サイトに分散して衛生管理を徹底させることにより疾病リスクを軽減させ、高い生産性を実現している。地域の飼料用米を肥育豚に給与するとともに、良質な豚ふん堆肥を耕種農家に供給して耕畜連携に貢献している。

・受賞者の特色

（1）3サイトシステムと衛生対策

- ① 農場を繁殖、離乳、肥育の3サイトに分散し、自社の専用トラックで豚を運搬することにより、農場間での疾病の伝播が起こらないように工夫している。
- ② 近年、米国や我が国において多数の発生があったPED（豚流行性下痢）は農場に浸潤していない。清浄化を達成した米国の獣医師と情報交換を行い、社内ミーティングにおいて最新情報を職員に周知し、防疫知識を高めている。
- ③ その一方、家畜との接触がないこと、シャワーを浴びてからの入場等の厳しい条件をクリアすれば、修学旅行の中学生やテレビ取材など見学者を受け入れて、養豚への理解醸成に努めている。

（2）ベンチマークテストで技術を研鑽

繁殖能力の高い種豚を海外から直接導入して遺伝的能力を高めるとともに、農場間で生産技術や経営指標を競い合うベンチマークテストに参加して、技術を研鑽することによって生産性を高めている。

（3）耕畜連携と地域貢献

地域の耕種農家から飼料用米を購入して肥育豚に給与するとともに、生産した良質な豚ふん堆肥を無償で耕種農家に供給し、耕畜連携に貢献している。また、自家農場産の杜仲茶を給与したブランド豚肉を供給し、地元観光産業にも貢献している。

・普及性と今後の発展方向

養豚経営を体系的に考え、情報を収集・処理して、数字に基づき管理するという経営方針は、養豚農家のモデルとして参考になる。今後、母豚を3,000頭規模へと拡大する計画であり、さらなる生産性の向上が期待できる。